

---

# 教育内容

---

## 臨床心理学科の特色

いじめ、不登校、自傷・他害、他殺・自殺、また親子間の問題やストレス、中高年の適応障害、性格上の問題、更には災害・緊急事態などにおける外傷後ストレス障害などに対する心理支援は、年齢、性別、地域に限定されず幅広く求められている。これら援助の要請に真摯に応えるため、新しい援助理論・技術・組織の開発・研究を実践する。

一方で、国家資格である公認心理師資格の設立および臨床心理学領域の各学会における認定資格の増加（例：日本心理学会の認定心理士、日本行動療法学会の認定行動療法士、日本バイオフィードバック学会の認定バイオフィードバック技能師、日本健康心理学会の健康心理士、日本応用心理学会の応用心理士など）を踏まえ、卒業後、これら各認定資格を取得しうる基礎学力の修得を図る。

## (1)臨床心理学科の教育目標

心理科学部臨床心理学科の教育理念・教育目的に基づいて、以下の教育目標を定める。

- ① 心の障害、コミュニケーション障害に対処する心理専門職としての知識・技術の修得
- ② 社会の変化、科学技術の進展に合わせて専門性を検証し、自己研鑽できる能力の育成
- ③ 予防的、治療的、予後的次元から様々な障害を見通せる能力の涵養
- ④ 生命の尊厳に対する専門性のかかわりを常に意識できる感性の育成
- ⑤ 地域的・国際的に貢献しうる学識と行動力の涵養

## (2) 臨床心理学科の教育内容

- ① 1年次には、大学教育へのスムーズな移行を図るために、導入科目を配当する。また、健康・運動科学および情報化社会への対応科目も1年次に配当する。
- ② 豊かな人間性・自立性・創造性・協調性等を身につけるために、教養科目を1年次から2年次に配当する。また、社会のグローバル化・多文化化に対応する外国語科目を1年次から2年次に配当する。
- ③ 1年次から3年次にかけては、身体科学と対応した心の基礎的な知識を身につけるために関連する医療基盤科目、医療系科目を配当する。
- ④ 1年次より、専門教育科目の体系化・構造化を図り、臨床心理専門領域の理解・深化を目的とした科目を配当する。また、1年次から4年次にわたって、公認心理師受験資格取得科目を配当し、国家資格に必要な知識・技能の修得を図る。
- ⑤ 2年次より、多様な職業分野へのキャリア形成を図るため、進路支援科目・産業心理科目を配当する。また、心理臨床の基礎的技能を修得するために、1年次から4年次にわたって、コミュニケーション科目・心理療法科目を配当する。
- ⑥ 3年次以降は、専門演習、心理文献講読等の科目履修を通して、自らのテーマによって教養と専門性を維持向上させる研究を実践する。
- ⑦ 学修成果を把握・評価するために、筆記試験、ループリックを用いたレポート、実技試験などを実施する。

## (3)研究協力者プール・クレジットシステム

学生の研究参加へのモチベーションと、学生が研究に参加することで得られる教育効果を高めるため、臨床心理学科の学生の研究協力を評価するシステムを導入している。